

**みやぎNPO夢ファンド (B) ステップアップ支援プログラム  
平成22年度助成事業 最終報告書**

2011年04月30日

団体名	特定非営利活動法人ほっぷの森
事業名	高次脳機能障害者と家族の支援ネットワークづくり事業
<p>助成金を使って行った事業について、具体的にご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)</p> <p><b>■平成22年度事業内容</b></p> <p><b>■研修会の開催</b></p> <p>目的：行政や医療機関、支援機関においても未だ高次脳機能障害についての理解不足があることや当事者・家族が支援者や地域とつながっているかどうかが生生活や精神面での状況の差に影響しているなどのことが前年度の調査で明らかになった。また、地域によって抱えている課題や支援体制の段階に違いがあることがわかった。その現状を受け、各地域ごとのニーズにあった研修会を開催し各地域の高次脳機能障害支援のつながりを深め広げることを目的とする。</p> <p>実施内容：</p> <p>※事前準備として、関係機関への挨拶、報告書配布を兼ね、現状とニーズのヒアリング、各圏域での研修会内容相談を行った(24箇所)。これにより、全県各地の高次脳機能障害の支援状況と課題の把握がなされ、各地域のニーズにそった研修会の内容を検討した。</p> <p>(訪問先一覧)</p> <p>4月 宮城県保健福祉部障害福祉課、東北大学付属病院、仙台市障害者更生相談所</p> <p>5月 仙台市障害企画課、宮城県リハビリテーション支援センター、仙台市障害者就労支援センター、仙台市高次脳機能障害家族会、障害者職業センター、北部保健福祉事務所栗原地域事務所、ハローワーク仙台、ビートスイッチ、NPO法人雲母倶楽部</p> <p>6月 宮城県保健福祉部障害福祉課、石巻市役所、仙南保健福祉事務所、北部保健福祉事務所、仙台保健福祉事務所(塩釜)、宮城県精神保健福祉センター、東部保健福祉事務所登米地域事務所、仙台市教育委員会、仙台市発達相談支援センター(アーチル)、気仙沼保健福祉事務所、NPO法人ネットワークオレンジ、東北厚生年金病院</p> <p>7月 大崎市社会福祉課</p> <p>※宮城県内保健福祉事務所の各圏域7か所にて、「高次脳機能障害研修会 みんながわかり合って生活していくことをめざして～高次脳機能障害の理解と支援のために」を開催(登米地域のみ「高次脳機能障害講演会」として実施)。6つの圏域にて、各保健福祉事務所が主催または共催、栗原地域では栗原市も共催となり、行政との協働で研修会を開催できた。各研修会においては、来年度へ向けての準備として支援ネットワーク「高次脳機能障害 どんまいネットみやぎ」の周知を行い、関心のある方には連絡先を登録していただき、今後のネットワーク設立の土台がつけられた。</p>	

助成金を使って行った事業について、具体的にご記入ください。(続き)

各地域での研修会報告

・仙南地域

主催：特定非営利活動法人ほっぷの森

共催：宮城県仙南保健福祉事務所

日時：10月22日 13:30~15:30

場所：大河原合同庁舎 大会議室

対象：当事者、家族、行政、医療機関、その他支援機関

内容：障害と向き合い一歩前へ進もうとしてきた家族や当事者の思いを聞いていただくことで、障害への正しい理解や家族や当事者のエンパワメントをはかる。

講師：佐々木智賀子（ピアカウンセラー・就労支援センターほっぷパートナー）

「家族として支援者として」

高次脳機能障害当事者「復職をめざして」

参加者：10名

・気仙沼地域

主催：特定非営利活動法人ほっぷの森

共催：宮城県気仙沼保健福祉事務所

日時：10月29日 13:30~15:30

場所：気仙沼保健福祉事務所 大会議室

対象：当事者、家族、行政、医療機関、その他支援機関

内容：障害と向き合い一歩前へ進もうとしてきた家族や当事者の思いを聞いていただくことで、障害への正しい理解や家族や当事者のエンパワメントをはかる。

また、気仙沼地域の当事者と支援している事業所にもパネルディスカッションに参加していただき地域の現状を伝え、地域での支援の充実拡大のきっかけとする。

講師：佐々木智賀子「家族として支援者として」

高次脳機能障害当事者「復職をめざして」

パネルディスカッション：

コーディネーター 小杉清香氏（気仙沼保健福祉事務所 母子・障害班班長）

パネラー 佐々木智賀子、当事者の方（仙台）、小野寺美厚氏（特定非営利活動法人ネットワークオレンジ代表理事）、当事者の方（気仙沼）

参加者：41名

・登米地域

主催：特定非営利活動法人ほっぷの森

共催：東部保健福祉事務所登米地域事務所

日時：11月19日 13:30~15:30

場所：登米合同庁舎 大会議室

対象：行政、医療機関、その他支援機関

内容：登米地域では高次脳機能障害についての認知が不足しており、そこで、各関係機関を対象に高次脳機能障害支援コーディネーターである原田氏に高次脳機能障害とは何かをわかりやすく講演いただき、また、当事者からの発表で障害の具体的な状態を伝える。

講師：原田勝行氏（東北厚生年金病院作業療法士、高次脳機能障害支援コーディネーター）

「みんながわかり合って生活していくことをめざして～わかりやすい高次脳機能障害～」

当事者「復職をめざして」

参加者：50名

助成金を使って行った事業について、具体的にご記入ください。(続き)

・石巻地域

主催：特定非営利活動法人ほっぷの森  
宮城県東部保健福祉事務所

日時：11月26日 13:30～15:30

場所：石巻合同庁舎 大会議室

対象：当事者、家族、行政、医療機関、その他支援機関

内容：障害と向き合い一歩前へ進もうとしてきた家族や当事者の思いを聞いていただくことで、障害への正しい理解や家族や当事者のエンパワメントをはかる。

講師：佐々木智賀子「家族として支援者として」  
当事者「復職をめざして」

参加者：36名

・栗原地域

主催：特定非営利活動法人ほっぷの森

共催：宮城県北部保健福祉事務所栗原地域事務所  
栗原市

NPO法人宮城身体障害者サポートクラブ サポートセンター ころんぶす

日時：12月3日 13:30～15:30

場所：この花さくや姫プラザ

対象：行政区長、民生員、保健推進員、社会福祉協議会評議委員、当事者、家族

内容：保健福祉事務所主催の専門家向け研修会や家族交流会の開催と連動し、地域へ向けての高次脳機能障害の啓発と地域の身近な理解者と支援者づくりのため、行政区長や民生員等を対象として行った。障害と向き合い一歩前へ進もうとしてきた家族や当事者の思いを伝えることで、障害への正しい理解を促し、また、サポートセンターころんぶすの地元での取り組みやの発表を通じて、地元の問題としてより身近にとらえていただき、潜在している当事者の掘り起こしにもつなげる。

講師：佐々木智賀子「家族として支援者として」  
当事者「働くことをめざして」  
野沢タキ子氏（サポートセンターころんぶす代表）「ころんぶすの取り組み」

参加者：93名

・大崎地域

主催：特定非営利活動法人ほっぷの森

共催：宮城県北部保健福祉事務所

日時：12月16日 13:30～15:30

場所：大崎合同庁舎 大会議室

対象：行政、医療機関、その他支援機関、当事者、家族

内容：障害と向き合い一歩前へ進もうとしてきた家族や当事者の思いを聞いていただくことで、障害への正しい理解や家族や当事者のエンパワメントをはかる。また、地元の太陽の村の取り組みを発表いただくことで、地域での支援の充実と拡大につなげる。

講師：佐々木智賀子「家族として支援者として」  
当事者「働くことをめざして」  
安藤優仁氏（太陽の村 支援員）「大崎 太陽の村の取り組み」

参加者：52名

助成金を使って行った事業について、具体的にご記入ください。(続き)

・仙台地域

主催：特定非営利活動法人ほっぷの森

共催：宮城県仙台保健福祉事務所、宮城県（交渉中）

日時：平成23年2月13日 13:30～

場所：エルパーク仙台 セミナーホール

内容：本年度の集大成として、また、次年度の支援ネットワークづくりのために、全県の支援者や当事者、家族がつどい、岩手の例を参考にしながら、また、県内7圏域すべての保健福祉事務所の保健師の方々にパネラーとなっただき、宮城県の現状や今後の宮城県内での支援ネットワークの在り方を検討する。

講師：堀間幸子氏（特定非営利活動法人いわて脳外傷友の会 代表）

当事者の方（仙台在住）

パネルディスカッション（パネラーとして7圏域の各保健福祉事務所保健師の方々と仙台市障害者更生相談所の方に参加いただいた）

参加者：140名

■報告書配布とメディア掲載

○平成22年5月14日河北新報朝刊「河北春秋」に昨年行った実態調査と支援ネットワークづくりについて取り上げられた。3件の問い合わせあり。

○平成22年6月4日河北新報朝刊暮らし欄に報告書完成の記事掲載。

反響が大きく60件近い問い合わせがあり、高次脳機能障害の啓発や掘り起こしにつながった。緊急を要すると判断した相談は、相談窓口を伝えたり医療ソーシャルワーカーや行政へつないだり、実際に面談を行った。

○平成23年2月16日、23日河北新報朝刊に栗原での研修会の模様等が掲載。

○平成23年2月19日河北新報朝刊に2月13日に開催したみやぎ高次脳機能障害研修会の記事掲載。

■広報印刷物作成

目的：昨年の実態調査や各圏域のヒアリング結果から、わかりやすく高次脳機能障害を紹介し、当事者や家族の必要とする情報を掲載し、読み終わった後に希望がもてるような冊子を作成する。

○タイトル：『高次脳機能障害ハンドブック』

○内容：ピアカウンセラー佐々木智賀子家族の具体的な事例をもとにして、漫画やイラストを交えて、高次脳機能障害が身近な問題であることや手帳取得などの情報をわかりやすく伝える。

○サイズ：A5サイズ

○ページ数：56ページ

実施状況：

○完成 平成23年4月 日

○配布先

宮城県内の各保健福祉事務所、市町村の行政窓口、各地の拠点となっている病院、各地域の支援機関（障害福祉サービス事業所等）、当事者、家族

■ブログ「宮城県内の高次脳機能障害の方々とご家族の支援ネットワークをつくろう！」

目的：昨年度開設したブログの充実をはかり、支援ネットワークづくりの情報発信を行う。

実施状況：○更新回数9回

○アクセス数1731回

○支援制度や関係書籍の紹介等の記事を掲載

助成金を使って行った事業について、具体的にご記入ください。(続き)

■小児の高次脳機能障害の実態把握

目的：全く実態がわかっていない小児の高次脳機能障害について、特別支援学校や特別支援学級の先生方へのヒアリング調査等を行い、また、研修会等々で小児の高次脳機能障害について啓発をはかる。

実施状況：

○仙台市教育委員会を訪問。調査報告書を持参し、担当の方に小児の高次脳機能障害についてヒアリングと説明を行った。ケガなどにより脳に障害をおった事例は知っていたが、高次脳機能障害という言葉は聞いたことがなかったとのことで、学校現場では、ほとんど知られていないのではとの回答であった。

また、多賀城市の中学校内の特別支援学級担当の教諭 30 名にもヒアリングを行ったが、小児の高次脳機能障害というものを知らなかったとの回答であり、宮城県内の特別支援学校高等科の進路担当教諭数名からも同じ答えであった。高次脳機能障害の説明を行うと、そうかもしれない子どもがいるかもとの発言もあり、学校現場では全く高次脳機能障害について知られておらず、高次脳機能障害でありながら知的や発達障害として扱われている子どもがいる可能性があるが、ペーパーによる調査等は現時点では困難であることがわかった。

○日本脳外傷友の会も今年度は小児の高次脳機能障害への取り組みを強めており、取り組みもなされていない状況を改善しようとの動きが出てきた。全国的は動きとつながり情報を得るため、10月2日に神奈川にておこなわれた「父母と教師のための後天性脳損傷児童・生徒の医療基礎研修講座 発達障害とはどう違うの？小児高次脳機能障害を知ってみよう!!!」に職員2名が参加、全国的にも学校現場での認知度の低さとそのことにより取り組みがほとんどなされていない現状を知る。

○各圏域での研修会にて小児の高次脳機能障害について言及し、啓発を行った。

○2月11日横浜にて開催の「小児の高次脳機能障害フォーラム」参加。

■宮城県高次脳機能障害支援対策推進委員会への参加

12月20日に宮城県庁にて行われた宮城県高次脳機能障害支援対策推進委員会に参加。県からの要請により当事業の報告と県内の現状の報告を行った。

年度の成果目標はどの程度達成できましたか。当初目標と比較して記入してください

●申請書に記載した成果目標

広報印刷物の配布や報告・研修会の開催等を通じて、一年目の調査結果から、その地域にある人的及び社会的資源を生かしながら、7圏域ごとの高次脳機能障害者の包括的支援体制づくりを目指す。

体制づくりのきっかけとして、報告・研修会を開催し、支援される側とすでに支援している人及びこれから支援者となりうる人の集う場とし、その場で当事者・家族自身が自らの思いを語ることで、他の当事者・家族、支援者をエンパワメントする。そこから、互いに顔の見えるつながりを各地で形成する。

そうして出来た各地域のネットワークを、さらに大きくつなぐ宮城県の高次脳機能障害支援のネットワークを形成し、3年目の組織化につなげる。

また、小児の高次脳機能障害について、特別支援学校、特別支援学級等へヒアリング調査を行うとともに、そのプロセスで小児の高次脳機能障害の周知と啓発を行う。

●目標の達成度・団体に与えた効果

研修会を各地の保健福祉事務所や行政と協働にて開催できたことは、7圏域ごとの高次脳機能障害者の包括的支援体制づくりにとって大きな一歩となった。また、研修会を通じて、顔の見えるつながりの形成が行えたことや当事者、家族の方がエンパワメントされ、一歩踏み出しつながっていきこうという動きが起きてきた。報告書など当事業の成果がメディアで取り上げられたことで、潜在していた高次脳機能障害当事者、家族の掘り起こしにもつながっている。

地域の支援体制への大きな成果として、高次脳機能障害の評価入院等を受け入れていなかった気仙沼市立病院が、当事業の研修会をきっかけとして、評価入院等を行っていくことになったこと、栗原地域での研修会は民生員や行政区長等を対象に行ったことで、地域での障害理解を広げ、身近な支援者の創出につながったことがあげられる。

また、宮城県内をくまなく訪問しヒアリングし全県の情報を把握している等、これまでの活動を評価され、2年ぶりに開かれる宮城県高次脳機能障害支援体制推進委員会に参加要請があり、調査報告書や全県の状況、当法人の高次脳機能障害の方への就労支援について等報告を行った。当事業の取り組みが、県の今後の政策に反映させることが

また、作成した「高次脳機能障害ハンドブック」はマンガを使用するなど内容のわかりやすさが好評を得ており、今後、病院で診断を受けたご家族や当事者の方々に支援を提供することで具体的な事例として提示できるものと考えられる。

●本年度の事業を通じて、新たに見えてきた課題はありますか。

もしあれば、その解決に向けて必要なことをお書きください。

地域ごとの問題点や課題の違いを痛感した。その解決に向けて医療機関の理解や支援が弱い地域には拠点病院からのアプローチ。地域の受け入れ施設等が少ない地域へは、県リハビリテーション支援センターからの働きかけ等、拠点病院・拠点機関との連携を図り地域ごとの問題や課題の解決に取り組んでいきたい。

平成22年度の収支報告（具体的に記入してください）

**収入の部**

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	1,000,000	1,000,000	
自己資金	280,000	120,883	
合計	1,280,000	1,120,883	

**支出の部**

項目	予算（円）	決算（円）	備考
人件費	288,000	166,000	
印刷物制作費	500,000	504,025	チラシ・ハンドブック他
Web管理費	60,000	63,000	ホームページ更新
通信費	120,000	105,156	電話切手宅急便
旅費交通費	50,000	184,600	通行料ガソリン代他
会場費	42,000	20,950	エルパーク仙台
雑費	20,000	7,152	研修会お茶他
講師謝金	200,000	70,000	研修会講師
消耗品費	0	105,430	記録用ビデオ他
事務消耗品費	0	49,970	コピー用紙封筒ほか
合計	1,280,000	1,276,283	

平成23年度の事業計画・成果目標 (助成継続団体のみ記入)

平成23年度
<p>事業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮城県高次脳機能障害者の為の本人・家族・医療・支援者・行政の垣根を越えたゆるやかなネットワークをつくる。(名称「どんまいネットワーク」) 前年度の事業成果をもとに、「高次脳機能障害 どんまいネットみやぎ」を発足。恒常的な情報の受け皿として、また、情報発信源となる組織を立ち上げる。当事者、家族のみならず、行政や医療機関、支援機関に関わっている個人や地域の関心ある方々も含めたネットワーク組織とする。</li> <li>2. 本人、家族の交流会の実施 各地域の状況判断の上、必要又は可能であれば家族会を開催する。震災後、地域で高次脳障害者と家族が孤立しないように、自宅から30分圏内で相談し合える場やつながりの形成をする。交流会や勉強会を県内7圏域ごとに開催。自分たちの抱える問題点や課題を出し合い、互いにエンパワメントされる場とする。また、出された問題や課題を「高次脳機能障害 どんまいネットみやぎ」に集約して政策提言として国や県に提出する。</li> <li>3. 小児の高次脳機能障害者の調査経過報告 調査自体が難しい状況だった小児の高次脳機能障害者について、2年の経過を経てどのような変化があったか報告し、また、小児の高次脳機能障害の啓発も行う。</li> <li>4. 3月11日震災時の上記ネットワークに関わる記録を収集し、レポートにする。 2年目までにつながった方で、連絡の取れる方々の安否を確認し、その後の状況を継続的に把握していく。</li> <li>5. 2年目に制作したハンドブックを配布することで、高次脳機能障害についての啓発活動を行い、東日本大震災時に新たに受傷された方、特に小児などについて掘り起こしを行う。 高次脳機能障害、当事者・家族を中心に宮城県内7圏域の保健福祉事務所・県内35市町村(仙台市は更生相談所より各区役所へ)・医療機関・支援機関への配布の実施。</li> </ol>
<p>この年の成果目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮城県での高次脳機能障害支援のネットワーク「高次脳機能障害 どんまいネットみやぎ」を設立する。国や県で行われているさまざまな高次脳機能障害者へのサービスや法の改正等が、このネットワークにつながることで、確実に個々に行き渡ることができるようになる。また「どんまいネットみやぎ」という形でネットワークをつくることで、このたびの災害時の様なときに連絡が可能となり迅速な対応が可能となる。</li> <li>2. 東日本大震災後、2年目までに「どんまいネットみやぎ」につながった方で、連絡の取れる方々の安否を確認したが、見えない障害である高次脳機能障害はこの様な大災害時に本人・家族共大変な困難を抱えていることが判った。この一年間、話を伺いながらその実態の情報を収集し、今後災害時の資料として役立つようにしたい。(話を伺うことで、ご家族のストレスにも対応することが出来る) 生活環境が変わってしまった本人・家族へ長期的な支援が必要と思われるので、推移と見守りをしつつ支援を行うことで本人・家族の孤立を防ぐ。</li> <li>3. 高次脳機能障害者と家族の意見をまとめ、小児の実態調査の経緯も含め、宮城県としての地域性にあった政策を国や県に提言する。高次脳機能障害についての啓発を行うことで広く高次脳機能障害に理解のある社会づくりができ、高次脳機能障害者、本人・家族にも様々な情報が確実に行き渡る事が出来るようになる。</li> </ol>

平成23年度の収支予算 (助成継続団体のみ記入)

収入の部

費目	金額	備考
助成金	1,000,000 円	
自己資金	250,000 円	
	円	
	円	
	円	
	円	
	円	
計	1,250,000 円	

支出の部

費目	金額	備考
人件費	750,000 円	
印刷代	200,000 円	
Web管理費	60,000 円	
旅費交通費	100,000 円	
通信費	100,000 円	
事務消耗品費	20,000 円	
雑費	20,000 円	
	円	
	円	
	円	
	円	
計	1,250,000 円	

経費についての補足説明 (内訳など)

人件費 職員1名 390,000 円 (@1250×26H×12ヶ月)  
           アルバイト2名 360,000 円 (@750×20H×12ヶ月×2)  
 印刷代 ハンドブック追加印刷代他  
 Web管理費 HP更新料など  
 旅費交通費 研修会・家族会他ガソリン代など  
 通信費 電話代・切手代・宅急便代  
 事務費 コピー代・用紙代・封筒代他  
 雑費 研修会家族会時のお茶代など